

- 日本語訳中、グレーに着色されている **P.1** 等は、原文献の頁を表しています。
- 日本語訳は、公開を目的として、一定の条件で発行者から承諾を得ております。
- 原文献に用いられているコンテンツの内、著作権が第三者に帰属する写真・ロゴ・イラスト等は使用していません。
- 引用等の際には、著作権者である発行者にも必ずお問合せください。

<原文献>

https://www.artscouncil.org.uk/sites/default/files/download-file/Strategy%202020_2030%20Arts%20Council%20England.pdf

表紙

アーツカウンシル・イングランド

LET'S CREATE 創造しよう

戦略 2020-2030

アーツカウンシル・イングランド
ARTS COUNCIL ENGLAND

P.1

【ヘッダ】
創造しよう

私たちの<戦略>を紹介します	2 ページ
変化への論拠	8 ページ
私たちが達成したいこと	15 ページ
達成に向けた取り組み	18 ページ
成果	32 ページ
私たちの投資原則	44 ページ
私たちの役割とコミットメント	56 ページ
さあ今こそ、創造しよう	60 ページ

P.2

【ヘッダ】
戦略 2020-2030

私たちの<戦略>を紹介します

ニコラス・セロタ卿 (Sir Nicholas Serota) (アーツカウンシル・
イングランド会長)

2016年7月1日、この国のあらゆる男女や子供たちは、駅やシ
ョッピングセンターや大通りで、死者の亡霊と対面することに

なりました。第一次世界大戦から100年を記念し、ターナー賞
受賞アーティストのジェレミー・デラー(Jeremy Deller)と、ナシ
ョナル・シアター芸術監督のルーファス・ノリス(Rufus Norris)
が力を合わせて、国中にまたがって行われる記念碑的パブリッ
クアート作品、『we're here because we're here』を共同制作した
のです。様々なバックグラウンドを持つあらゆる世代のボラン
ティアが何百人も集まり、事前に極秘練習を行ったうえで100
年前の軍服に身を包み街へ出て、ソンムの戦いの初日に亡くな
った兵士たち一人ひとりを体現しました。バーズリーのベン
チで、バーミンガムのバスで、またブラックプールの海辺で、
遠い昔に亡くなった兵士たちが、わずかな間だけ蘇ったのです。
何千人もの人々がこの作品と直に会い、さらに何百万人もの
人々がニュースやソーシャルメディアでシェアされたものを
通じてこれを目にしました。見知らぬ人々同士が会話を始め、
子供たちは大人に向かって質問し、通りすがりの人々は感動で
涙を流しました。「ほとんどの慰霊碑は、その場所へ行かなけ
れば見られないでしょう」とデラーは言いながら、この作品が
建物を飛び出して人々の生活へ入り込んでほしいと願いを述
べました。「この慰霊碑は、あなたのもとへやってくるのです」。

アーツカウンシル・イングランドの新たな<10年戦略>につい
て考えるとき、私がイメージするのはこのような光景です。国
中の各駅にいるボランティアの群衆が、仕事帰りの人々で溢れ
かえった雑踏の中で佇み、突然歌い始めるとホーム全体が静止
する。そこには過去と未来の両方が内包されているように思っ
ます。この作品は、アーツカウンシルのこれまでの<10年戦略
>が支援から生まれた大きな成果の1つです。戦略に基づき、
私たちは2人の素晴らしいアーティストに投資し、これほどの
規模でかつ野心に溢れた作品を作ることができたと同時に、こ
の先の未来をも大きく指し示すことができたのです。

そのビジョンの大胆さ、公共の場からソーシャルメディアへと
つながる軌跡、参加者全員で共有する創造性、作品に命を吹き
込む地元と国それぞれのレベルにおけるパートナーシップ、そ
して、おそらく最も重要なこととして、アーティストと彼らが
交流するオーディエンスとの間の障壁の解消。そういったすべ
での事柄が、私たちの<新戦略>でサポートしていきたい要素
です。

【ヘッダ】

創造しよう

文化で生まれ変わった国

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

<新戦略>は、私たち一人ひとりの持つ創造的可能性を尊重し、国中のあらゆるコミュニティに、文化をより多く楽しむ機会を提供し、あらゆるものの素晴らしさをたたえます。それは進化を伴う大きな変化です。過去 10 年の成功を尊重しながら、それを足掛かりとして次の課題に対峙し、心高まる新しい可能性に身を開くこと。富と機会の不平等、社会的孤立と精神的健康障害、そして何よりも加速する気候変動の緊急事態と、課題は山積みです。

これらに対応するにあたって、創造性と文化には特有の役割があります。社会について考察・言及したり、私たち自身の生活や他人の生活についてよりよく理解したり、議論を交わし、これまでにない視点を提案し、私たちの不安や野心を表現する新たな方法を発見できる共用空間を分かち合うことができます。しかし、私がアーツカウンシル・イングランド会長を務める中でこれまで以上に明白になったのは、今後 10 年間の課題は重大であると同時に、素晴らしい可能性にも溢れているということです。

近年、地域経済と人材、健康とウェルビーイング、そして子供と若者の支援において創造性と文化が果たせる役割について、その認識が大きな高まりをみせており、地方自治体や政府とのパートナーシップを強化したり、博物館・美術館、図書館や芸術団体に働くすべての人々に新たな道を開いたり、あらゆる場所における人々の生活を向上したりすることにつながっています。

コミュニティの形成と維持において文化が果たす役割に対する理解が明確になってきており、これからの 10 年間ではそれが活動の核となるでしょう。アーティストや文化団体は、今も国際交流の恩恵を受けています。この国がより広い世界との関係を見直している今、ますます多様化する私たちの文化は国の財産であり、国際社会における強みであり、国境を越えた自由な対話や協力関係を促してくれるものです。

【右中央太字】

過去 10 年の成功を尊重しながら、それを足掛かりとして次の課題に対峙し、心高まる新しい可能性に身を開くこと

【ヘッダ】

創造しよう

わかちあう経験

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

私たちの<新戦略>は、次のすべての点においてアーティストや活動団体がさらに先へと進めるように支援します。より幅広いオーディエンスを巻き込むために現在進行中の取り組みを強化・拡大すること、この国の多様性が、国の生み出す文化に十分反映されるようにすること、国際的なレベルで刺激し合い、協働することです。

そして、言うまでもなく、今後 10 年でこれらの機会を実現するにあたり、私たちはアーティストたち自身に目を向けなければなりません。この<戦略>は、キュレーター、図書館員、プロデューサー、そして全国から集まってくる様々なアーティスト、その一人ひとりを支援しようという責任感を深めるものです。私たちは彼らに、新たな作品づくりの過程において大いに学び、リスクを冒し、必要とあらば失敗を経験し、そして最後には成功を収めてもらいたいです。私たちが提供する支援は、クリエイティブ・プラクティショナーの中でもとくにろう者や難聴者、障害者、黒人やエスニック・マイノリティの人々、女性、社会経済的に恵まれない環境で育った人などが、キャリアをスタートさせたばかりの時や、新たな道を摸索している時など、最もサポートを必要としているときに重要な時間、空間、そして肯定感を提供することができます。個人に対して支援を行う場合、その意義や効果は数年後にならないとわからないかもしれませんが、全体としてみると、文化全般に与える影響は非常に顕著なものとなります。

2019 年のマーキュリー賞を思い起こしてみると、最終選考に残った 12 名のアーティストのうち 7 名は、キャリアの早い段階でアーツカウンシルが支援するプログラムから投資を受けていました。この支援がなければ、彼らのキャリアはさらに不安定なものになっていたでしょう。道半ばで諦めた人もいたかもしれません。2040 年、2050 年に活躍する優れたアーティスト、パフォーマー、ライター、キュレーターは、今から育てなければなりません。彼らへの投資は、つまるところ、文化と創造性を核にして、より明るく、より良いものになると信じている未来への投資なのです。

1951 年、当時のアーツカウンシル・グレートブリテン事務局長は、同カウンシルのミッションを「数本でも、バラ (few, but roses)」を育てることだと表現しました。そこから長い道のりを進んできました。この<戦略>により私たちが望むことは、

国中で創造性を開花させるための基盤を用意することです。そして、未来をあらゆる花でいっぱいにするための最も確実な方法は、私たちの誰しもが庭師になれるということを経験することです。

【右中央太字】

国中で創造性を開花させる

P.7

【ヘッダ】

私たちの<戦略>を紹介します

創造しよう

チャンスに溢れた世界

P.8

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

変化への論拠

私たちは2010年秋に、初めての<10年戦略>を発表しました。『あらゆる人に素晴らしい文化芸術を（Great Art and Culture for Everyone）』には、いたってシンプルな目標が掲げられました。それは、一般市民や私たちのパートナーと共に初めて、この国の文化芸術を支援し発展させるための共通のビジョンと優先課題を設定するというものでした。

この<戦略>の立ち上げ時期は、地方自治体や政府からの文化芸術への助成金額が減少した、緊縮経済の時代と重なりました。しかし、そこで築いた強固なパートナーシップは、厳しい経済状況の中でも、クリエイティブ・プラクティショナーや文化団体の支援に役立ちました。そして、その明確なビジョンのおかげで、素晴らしい文化芸術をできるだけ多くの人々が生み出し、体験し、理解できるような国にしよう、という共通の目標に向かって他者と協力することができました。

この最初の<戦略>の成功は、非常に大きな意味を持つものでした。イングランドのアーティスト、キュレーター、図書館員たちは、その後も国内外で活躍の幅を広げました。彼らは、我が国のクリエイティブ産業においてなくてはならない人材や事業へと成長し、その後は国の経済を支える大きな原動力となりました。多くの場所で、アーツカウンシルと地方自治体は手を取り合い、地方自治体の声をいっそう聞き入れながら、地域コミュニティの利益のために、文化への投資を続けました。文化団体はこの10年間の経済的困難に果敢に取り組み、公的助成金の減少に対抗すべく勤労所得を増やしたり、資金調達の新たな方法を編み出したりしたほか、環境にもより配慮し、作品や人材の多様化に向けても行動しました。これらすべての結果

として、私たちは、文化が地域のアイデンティティと繁栄を築き、より強固なコミュニティを形成し、変化を促す上で果たすことのできる役割について、これまでよりはるかに明確な理解をもって、新しい10年を迎えています。

しかし、やるべきことはまだまだあります。<新戦略>の策定にあたり、どのようにしてこれまでの10年間の成果を糧にして前進し、課題が残る領域において改善を遂げられるかについて考えていきます。

私たちは、一般市民、子供や若者、アーティスト、キュレーターや図書館員、文化団体の主宰者、そして、地方自治体や中央政府、教育分野で働いている人々など、国中の5,000人以上の人々との対話から着手しました。彼らがどのような創造性を体験したか、彼らの文化生活がどのようなものか、芸術・博物館・美術館・図書館は彼らにとってどんな意味を持つか、そして公金で支援するべきと思うものと、そうでないものについて尋ねました。

P.9

【ヘッダ】

変化への論拠

私たちは、アーティストや芸術団体の作品、図書館や博物館・美術館、そして、そこから一般市民がどのように恩恵を受けているのかということについて、100件以上の報告書を調査しました。

文化セクターに影響を与える可能性の高い、将来の動向に関する調査も委託しました。文化団体におけるリーダーシップについて、その経済的・環境的な持続可能性について、また健康、ウェルビーイング、刑事司法の分野で文化と創造性が果たす役割についてのエビデンスに着目しました。

こうしたエビデンスの分析から、文化セクターが直面するいくつかの主要な問題点を特定しました。これらの組み合わせにより、私たちの「変化への論拠」が作成されました。

内容は次の通りです：

- 全国的に人々の間で、「芸術」「文化」の定義、理解、評価が大きく異なっていること。多くの人々が、「芸術（the arts）」というラベルを好まず、その言葉からはビジュアルアートやバレエやオペラといった「ハイアート」しか連想しない。同時に、国内のほとんどの人々は活発な文化生活を営んでおり、創造性を発揮する機会を重視している
- 公的助成を受けた文化への関わり度の度合いを見ると、未だ社会経済的・地理的な格差が広く残ること
- 子供や若者が学校内外で文化や創造性を体験する機会は、全国的に見て不平等であること

- 問題への意識は以前よりも高まっているものの、クリエイティブ産業や公的助成を受けた文化団体における多様性の欠如は根深く、広範囲におよび残っていること
- 公的助成を受けている文化団体のビジネスモデルは脆いことが多く、特に公的助成金の減少や、新たな技術発展に伴い生まれる課題や機会に対応できるだけの柔軟性を持ち合わせていない場合が多いこと
- クリエイティブ・プラクティショナーや文化団体を牽引する人々の多くが、イノベーション、リスク負担、継続的な人材育成が続けられない状態にあることを報告していること

P.10

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

それから私たちは、一般市民やステークホルダーのもとへ戻り、私たちが特定した問題点を彼らが認識しているかどうか、また、私たちの次の<戦略>がその問題点に対応する必要があると思うかどうかについて、尋ねました。回答者たちは、私たちが提案する方向性に非常に肯定的で、過去 10 年間にあげた素晴らしい成果を胸に取り組みでほしいと頼みました。また、これらの主な問題点への対応を目的とした<戦略>について、その枠組みや実施方法に関する貴重なアイデアも数多くいただきました。

当然、この<戦略>は単独では存在しません。2030 年を見据えると、私たちの外で生じている課題と進展は、私たちのセクターそしてより広範囲の社会が直面しているものであり、ともに重大なものです。テクノロジーは高速で進化を続け、新たな機会を生み出すとともに、新たな疑問を生み出します。医療費やソーシャルケア費の増加に伴い、公的資金の需要は高まります。

世界の財政的見通しは依然として不透明であり、欧州連合(EU)からの離脱を受けて、英国と欧州との関係は引き続き変化していくと思われます。この国は、今後も歴史ある文化的・社会的・経済的分裂に直面し、立ち向かっていくでしょう。そして、そのすべてに影を投げかけるのは、気候変動や環境汚染という喫緊の問題であり、今後 10 年間の社会的、政治的、経済的展望を形成する大きな影響力となることは間違いありません。

【右中央太字】

私たちは、文化が果たすことのできる役割について、より明確な理解をもって新たな 10 年を迎えようとしています

文化セクターは、このような幅広い変化にすでに適応し始めています。対話の中で参加者たちは、調査で明らかになった課題にすでに取り組んでいるイングランド中の多くの団体や個人の名を、瞬時に挙げてくれました。彼らは、技術セクター、ク

リエイティブ産業や高等教育などとのパートナーシップ、健康やウェルビーイングにまつわるプロジェクト、環境持続可能性へ向けた取り組み、そして、日々の創造性に対するこれまで以上の支援と称賛といった側面を強調しました。このような先駆的活動はとても刺激的で、ひらめきを与えてくれます。今後の目標は、これらの活動を適応・拡大させ、私たちのセクターのさらに幅広い発展と影響力を加速・深化させることであるべきです。

P.11

【ヘッダ】

変化への論拠

この<戦略>では、今後 10 年で私たちが共に達成したい変化が定められています。それはクリエイティブ・プラクティショナーや文化団体およびそこで働く人々が、この先に待ち受けているものに機敏かつ効果的に対応し、より良いものへと変えていけるような条件を整備するための力になるでしょう。そしてアーツカウンシル・イングランドにとっては、今後 10 年間における開発機関としての私たちの役割や、国営宝くじや納税者から受ける助成金投資に対する姿勢、そして、私たちの創造性と文化のアドボカシーを決定づけるものとなるでしょう。

私たちは、すべてを一度に成し遂げようとしているわけではありません。変化は時間がかかるものであり、歩みのペースはある程度利用できる資源に左右されます。そこで現在から 2030 年までの間、私たちは期間ごとの具体的優先課題を定めた一連の実施計画(Delivery Plans)を発表していきます。しかし、文化セクターの力とバイタリティに加え、今後の課題に対して共通の認識を持ち、この<戦略>のビジョンに対する責任感を共有していれば、私たちはより多くのことを成し遂げ、さらに先へ進むことができるという自信を持って今後の 10 年間に取り組むことができます。今こそ、次のステップへと進む時なのです。

P.12

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

文化と創造性の定義

【左囲み】

文化

「文化」とは、多くの人々にとって様々な意味を持つものであり、しばしば食や宗教、その他の遺産のことを指します。しかし、ここでは、アーツカウンシル・イングランドが投資している芸術形態や団体に関連する活動のすべての領域、すなわち、コレクション、複合芸術、ダンス、図書館、文学、博物館・美術館、音楽、演劇、そしてビジュアルアートを指す場合に用いています。「芸術」、「博物館・美術館」、「図書館」のよう

に分けて表現するのではなく、すべてを総称して「文化」と呼ぶことで、私たちが支援するすべての活動を含有することを目指しています。また、本戦略のために委託した調査によると、一般市民は「芸術」や「アーティスト」という言葉を使うとき、とりわけクラシック音楽やオペラ、バレエやビジュアルアートなどを指して使う傾向があるという結果が出ていますので、それを反映する意図もあります。同様に、新しい文化コンテンツを作ったり、既存の文化コンテンツを再形成したりするあらゆる人々を指す包括的な用語として、「アーティスト」ではなく「クリエイティブ・プラクティショナー」という言葉を使用しています。

また、新しい技術や様々な社会的変化がアーティスト、キュレーター、図書館員や他のプラクティショナーの働き方を変え、文化の作られ方や共有のされ方を変えていく中で、文化的活動の間や周りを取り巻く従来の境界線が消えつつあることも、認識しています。私たちは、今後 10 年でますます加速すると予想されるこの変化を、楽しみにしています。この変化に応じていくため、今後数年で支援する文化活動の幅と種類について、さらに柔軟に対応していくつもりです。

【右囲み】

創造性

「創造性」とは、人々がその知識、スキルと直感を用いて、それまではなかった何かを想像したり、発想したり、表現したり、あるいは作ったりするプロセスを意味します。創造性は生活のあらゆる領域に存在しますが、この<戦略>では、とりわけ「文化」を作ったり、生み出したり、あるいは参加したりするプロセスを指す場合に用いています。

P.13

【ヘッダ】

変化への論拠

創造しよう

輝ける場所

P.14

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

ビジョン

2030 年までに、私たちはイングランドが、一人ひとりの創造性が評価され、それを開花させる機会を与えられるような国になって欲しいと思っています。そして、私たち一人ひとりが、

驚くほど幅広く質の高い文化体験へアクセスできるような場所になってほしいと願っています。

P.15

私たちが達成したいこと

2030 年には、文化により変化を遂げた国が、同時に文化を変化させ続けている状況を思い描いています。それは、私たち一人ひとりが役割を果たす真に創造的な場所です。

創造性と文化は深くつながっていると同時に異なるものであると、私たちは考えています。創造性とは、個人または複数人で何か新しいものを作る（芸術作品、または既存の作品の再制作など）プロセスです。文化はその創造的プロセスの結果です。私たちが、世界で、博物館・美術館や図書館で、劇場やギャラリーで、お祭りやコンサート会場で、また、フェスティバルやデジタル空間で出会うものです。この<戦略>では、誰もが創造的になり、質の高い文化を体験するという両方の機会をより多く手にして欲しいので、この2つを区別しています。個人の潜在的な創造力を発展させる時間とツールを得ることで大きな充実感で満たされ、文化に関与することでひらめきや喜びにつながります。この両方があれば、私たち自身や互いのことを理解する助けになります。私たちを刺激し、気持ちを高揚させてくれます。コミュニティを一つにしてくれます。そして、喜びをもたらしてくれます。創造性と文化のいずれかへのアクセスが、人々の出自、バックグラウンドや職業に制限されている場合、社会全体が損害を被ります。

多くの人々がすでに幅広く創造的な生活や文化的生活を送っています。踊ったり、絵を描いたり、文章を書いたり、読書をしたり、博物館・美術館を訪れたり、音楽を聴いたりし、子供たちにも同じことをするよう促します。このような活動の多くが公的助成を受けていないため、これまで、アーツカウンシルの助成対象から外れてしまっていました。しかし、この<戦略>では、この国のすべての市町村にいる人々の創造活動と文化体験を認識・推進することを目標としており、それを確実にするために、今後 10 年でもっと多くの人々が自身の創造性を表現・発展できるよう支援し、さらに多くの人々が可能な限り幅広い文化を楽しむことのできる機会を生み出していきます。私たちがこのようなことを行うのは、あらゆる人々があらゆる場所で創造性と文化への公的助成の恩恵を受けるべきであると信じているからであり、彼ら一人ひとりがこれを実現し、私たちが生活・活動しているコミュニティを変革する力を持っているからです。そして、世界で最も創造的な場所の一つとしてイングランドの評価を高めたいからです。

P.16

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

創造しよう

ワクワクするようなアート

P.17

【ヘッダ】

私たちが達成したいこと

創造しよう

心に響く音楽

P.18

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

達成に向けた取り組み

アーツカウンシル・イングランドは、創造性と文化のための国の開発機関です。

私たちは 1946 年に勅許 (Royal Charter) を受け、70 年以上にわたって国の文化生活に出資してきました。2010 年に発表された初めての<10 年戦略>は、開発機関としての道のりにおいて重要なマイルストーンでした。その過程を通して、優れた作品や団体に対する投資に重点を置くことだけでなく（これはもちろん重要ですが）、その先を見据えてエビデンス基盤を築き、それを活用しながらより多くの人々に恩恵が届くことを目標にして投資の方向性を決定し、パートナーシップを発展させることができました。

しかし、今回の<戦略>のために行った調査からは、まだまだ先は長いということがわかります。今後 10 年間に向けた大志を達成するためには、創造性と文化に関する国家的な開発機関としての私たちの役割を、最大限果たす必要があります。地域的にも全国的にも、戦略的に投資し、その投資を一般市民が求める成果につなげなければなりません。地方や全国チームのスキル、知識、ネットワークを成長させ、新たなパートナーシップを築き、創造性と文化が全国的に開花できるような条件を整備する必要があります。文化セクターが直面している主な課題と機会を特定し、それに対応するための大胆なアイデアを有する人々を率先して集めなければなりません。創造性と文化が個人、コミュニティ、そして国にもたらしてくれる価値を、心を動かし、気持ちを納得させるような方法で説明していく必要があります。すなわち、デジタル・文化・メディア・スポーツ省

(Department for Digital, Culture, Media & Sport)、地方自治体やその他の機関と協力して、文化分野におけるポジティブな変化とイノベーションを支援し、「誰もが自身の創造性を探究し、優れた文化を楽しむことのできる国」というビジョンに向かって人々を動かすことが、私たちの役目になるでしょう。

この<戦略>は、この国にいるすべての人々の創造的な生活を認知し、称賛する必要性に基づいており、その成功は、アマチュア、ボランティア、商業セクターを含め、これまで以上に幅広い文化を私たちが理解し、支援する能力にかかっています。

P.19

【ヘッダ】

達成に向けた取り組み

その大部分は、私たちの金銭的投資を必要とするものではありませんが、今後 10 年間、私たちは自らの開発的役割として、日々の生活の中で人々が楽しむ文化と創造性、私たちが助成金を供与する団体、民間クリエイティブ産業の間のつながり構築をサポートしていきます。

【左中央太字】

**子供や若者がそれぞれの潜在的創造力を伸ばし、
最も質の高い文化体験にアクセスする機会を創造する**

私たちは、文化団体、メディア企業、ヘルスケア提供者、チャリティやボランティアセクター、地方自治体や政府、その他の国営宝くじの代理店と協力し、一般市民に直接語りかけることにより、利用できる創造的・文化的活動や、それらに参加することで得られる利点に対する認識を高めていきます。

最初の<戦略>では子供や若者が中心となっていました、一般市民との対話から、その支援を高く評価していることが明らかになりました。そのため、今後の 10 年では、開発的役割の大部分を、子供や若者がそれぞれの潜在的創造力を活かし、彼らが住む場所、通っている学校、そして自由時間を過ごす場所で最も高品質な文化体験にアクセスできるようにすることに焦点を当てていきます。教育省 (Department for Education) とのパートナーシップは、この領域での私たちの取り組みにおいて今後も重要な役割を果たすでしょう。私たちは教育省、そして一般市民や教師たちに対し、教育における創造性の価値、そして、芸術やデザイン、ダンス、演劇や音楽を含めた内容豊富なカリキュラムの重要性を訴えていきます。すべての子供や若者たちの創造的・文化的生活を確保することは、2030 年へ向けた今回の<戦略>のビジョン実現に不可欠です。

私たちは、創造性と文化の本質的な価値を信じています。私たちに喜びと感動を与える力、私たちが世界を理解する一助となる力となるからです。しかし、創造性と文化へ投資することは、若者や働き手に技術を与えたり、経済成長をもたらしたり、健全で結び付きの強いコミュニティの構築に貢献したりと、幅広

い社会的利益をもたらすことも知っています。今後 10 年間、私たちは公的資金を文化に投資することの社会的・経済的価値を論証する方法の改善に努めます。国の経済で最も急速な成長を遂げているセクターの一つであるクリエイティブ産業を強化するため、

P.20

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

創造しよう

心踊るダンス

P.21

【ヘッダ】

達成に向けた取り組み

創造しよう

未来の博物館・美術館

P.22

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

私たちは、研究開発を促進し、新技術の採用を支援します。クリエイティブ産業における多様性の欠如が慢性的に続いている現状を考慮し、文化的人材が確実に現代のイングランドを代表するものになるよう後押ししていきます。私たちは、文化セクターを支援するための措置を講じ、環境責任の促進に関する独創的で新たなアプローチを考案する先導役になります。各地域では、パートナーたちと協力し、図書館や博物館・美術館、芸術関連施設への投資により包括的な経済成長を支援し、それらが目的に即して運営され、各コミュニティやその中で働き、創造する人々のニーズを満たすことができるようにしていきます。また、地方の経済再生を促すため、そこに合った新しい文化施設への投資の必要性を訴えています。これらすべての取り組みの中で、アーツカウンシル・イングランドはデータを活用して、各地域の投資状況をより精緻に把握・共有し、機会を的確に捉えて大きな課題に対処するために大規模な投資を行うことのできる専門の国家開発機関として、効率的に運営していきます。

2011 年、アーツカウンシル・イングランドは、図書館と博物館・美術館の発展のための国家的責任を担うことになりましたが、公共図書館への中核的な資金提供は、引き続き地元の図書館当局の法定責任となっています。私たちは、イングランドの公立図書館のネットワークは、国全域において創造性の発展と文化

の促進に不可欠な資源を提供していると考えています。

【右中央太字】

私たちは、世界最高峰の文化を紹介し、オーディエンスに興奮とひらめきを提供する文化団体を支援していきます

公立図書館は、国で最も幅広く頻繁に利用されている文化空間であり、各コミュニティの中心に位置し、しばしば文化活動への最初の接点となっています。より強固で明るいコミュニティの構築を後押しし、社会的処方支援し、読者を育成し、デジタルリテラシーを促進してくれます。公立図書館は今回の<戦略>の実現において中核的役割を果たすものであることから、今後 10 年間で、公立図書館への投資を増やしていく予定です。

P.23

【ヘッダ】

達成に向けた取り組み

博物館・美術館は、文化を理解し、形作る上で非常に大切な役割を果たします。私たちに過去とのつながりをもたらし、未来について考えるよう促してくれます。博物館・美術館自体が、科学・歴史・芸術を繋ぎ、研究を通して知識を構築し、教育・討論・創造活動・芸術活動のための空間を作り、コミュニティにおける場所の精神を維持するなど、学際的な機関へと進化してきました。博物館・美術館の支援・開発における役割に加え、私たちには、国の保有するコレクションや文化財を発展させるという、英国全体における一連の法的役割もあります。私たちは、営利保険の重要な代替手段となる「政府補償制度（Government Indemnity Scheme）」を提供し、博物館・美術館が貴重な文化財を展示できるようにしています。また、作品を公有化することで誰もが楽しめるようにする「芸術品による税の代替納税制度（Acceptance in Lieu Scheme）」ならびに「文化財贈与制度（Cultural Gifts Scheme）」を提供しています。デジタル・文化・メディア・スポーツ省と協力して輸出管理を実施することで、文化財や作品を国境間で移動させたり、国宝を国内に保持する機会を提供したりしています。これらすべての取り組みは、現在でも未来にも、イングランドのコレクションや作品が発展し、保護され、鑑賞されるために、重要な役割を果たしています。活力に満ちた博物館・美術館セクターが、この<戦略>の核を成していくでしょう。今後 10 年間、私たちは自らの法的機能にしたがって、博物館・美術館のコレクションへの公共アクセスを拡大し、できる限り多くの人々に喜びとひらめきを与え続けられるようにしていきます。

未来を見据えると、英国と欧州との関係が変化するにつれて、アーティストや団体が国際的に活動するための手助けを行うという私たちの役割はさらに重要になるでしょう。国際的な活動は、国に大きな文化的・財政的利益をもたらします。理解と知識交換を促進し、文化人材のスキルを育み、多くの文化団体に必要不可欠な収入の流れを提供します。今後 10 年間で私たちは、文化セクターの国際的な存在感を高めることによって、

すでに国際的な取り組みを行っている団体がその活動を強化できるよう支援し、個人や団体がグローバルなパートナーシップを構築できる新たな機会を生み出していきます。

P.24

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

私たちは、文化団体が世界最高峰の文化を伝え、この国のオーディエンスに興奮とひらめきを与えられるように支援していきます。国際的な展示の機会やツアーの支援を続け、新たな国際交流プログラムやネットワークの発展に努めていきます。ブリティッシュ・カウンシル、「GREAT キャンペーン」（グレート・キャンペーン）、国際アーツカウンシル・文化機関連盟（IFACCA）（International Federation of Arts Councils and Cultural Agencies）との協力を今後も続け、また、新たなパートナーを探すことで、この活動の効果を最大限に引き出します。

この＜戦略＞が目指す成果は意欲的なものです。これを単独で成し遂げることは不可能であり、そのように望んでいるわけでもありません。パートナーと共に活動することは、創造的で文化的な国の発展において不可欠です。私たち皆が協働し、互いから学び、最終的により多くの人とつながることを可能にしてくれます。地方自治体や高等教育機関との現在の協力関係は、私たちの中でも最も重要で貴重な資産の一部です。

今後 10 年間で私たちは、国としての視点を活かして、既存のパートナーシップを強化し、新たなパートナーシップを構築していきます。また、その過程で、イングランド中のあらゆる地域で、私たちのビジョンを共有し、共に協力して創造的で文化的な機会を育てていきたいと感じている人たちを見つけていきます。2030 年までに、私たちのパートナーのネットワークは、文化セクター内外とつながることになるでしょう。それは、地方自治体や政府、継続・高等教育や学校から、商業・公共・非営利セクター、後援者・個人寄付者・信託機関・財団法人までに至ります。私たちは、2030 年までに文化と創造性への公共・民間・商業投資のすべてが増えることを心から望んでいます。

P.25

【ヘッダ】

達成に向けた取り組み

創造しよう

ひらめきをくれる図書館

P.26

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

戦略

アーツカウンシル・イングランドの 2020-2030 年の＜戦略＞は、3 つの成果と 4 つの投資原則を中心に築かれています。これらが合わさると、私たち一人ひとりの創造性が重視され、開花させる機会を与えられ、非常に幅広く質の高い文化体験に誰もがアクセスできる国であれという私たちのビジョンが達成されるよう意図されています。

3 つの成果は、人々が人生のあらゆる段階で個人的な創造性をどのように育むことができるのか、文化はいかにしてコミュニティの中の人々によって、また人々とともに生み出されるのか、そして、人々が生活し、働き、学び、訪れる場所をいかにして形作るのか、さらに、今後 10 年間で必要になると思われる、革新的で協力的かつ国際的に通用する専門性の高い文化セクターの発展に焦点を当てています。1 つ目の成果は、子供や若者による活動を含む、アマチュアやボランティアによる創造活動に重点を置いています。3 つ目の成果は、正規の就学期間を終えた後にクリエイティブ産業でキャリアを築きたいと考えている人たちを含む、仕事としての文化セクターに注目しています。2 つ目の成果は、1 つ目と 3 つ目の成果を統合するもので、職業セクターとボランティアセクターがどう協力し合えば、さらに強力な文化的供給を市町村に提供することができるかを考えます。

これらの成果は意欲的なものであり、この国の人々全員に行き届くことを目的としています。しかし国内には、文化セクターを含め、従来の公的助成の傾向などにより、不利な条件に置かれてきた場所や人々が存在するという事実を、私たちは認識しています。したがって、この＜戦略＞の実現方法に関する詳細を定めた実行計画（Delivery Plans）を今後 10 年間にわたって発表する予定であり、その計画では、これらの歴史的な不均衡への対処に特に着目していきます。具体的には、今回のプログラムが今まで私たちのリソースへのアクセスが最も少なかった人々、つまり社会経済的に恵まれない人々や、ろう者・難聴者や障害者、黒人やエスニック・マイノリティの人々のニーズを確実に満たすよう対応していきます。

P.27

【ヘッダ】

達成に向けた取り組み

4 つの投資原則では、文化団体が 3 つの成果をより良い形で実現できるよう、文化団体がどのように成長・発展する必要があるかについて定めています。これらの原則の下、私たちが助成金を提供する団体はどれも、ダイナミックで、非常に協力的で、

活動の仕方や生み出す文化において包摂的かつ適切で、優れたリーダーシップを示す団体であるでしょう。意欲的で、常に自らの仕事の質向上に向けて努力する団体です。そして、環境責任に対するアプローチにおいてそれぞれのコミュニティのリーダーとなり、創造とビジネス双方のイノベーションを通してその成功を示すことができるでしょう。私たちが支援する団体が集まれば、この国の多様性を象徴することになるでしょう。個々の活動では、それぞれのコミュニティ、クリエイティブ・プラクティショナー、パートナーなどにとって価値があり、評価される方法で各自が取り組むでしょう。

成果と投資原則は、根本的にリンクしています。優れた図書館、博物館・美術館、芸術団体にオフラインとオンラインで容易にアクセスできれば、人々はもっと効果的にそれぞれの潜在的創造力を発揮することができると、私たちは考えています。このような援助は、地域的にアクセス可能でありながら、意欲があり、包摂的かつ適切で、ダイナミックで、環境責任を有するものである、国の文化的生態系の一部でなければなりません。そして、その生態系は、個々の潜在的創造力を発展させる機会を平等に与えられた、あらゆるコミュニティの才能あるアーティスト達により、強化されなければなりません。これらの成果と投資原則が合わさることで、私たちが 2030 年までに望む創造的・文化的なイングランドへと、導いてくれるはずです。

P.28

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

成果

【左上囲み】

クリエイティブな人々

誰もが生涯を通して創造性を育み、表現することができる

【右中央囲み】

文化コミュニティ

市町村が、文化に対する協力的アプローチを通じて繁栄する

【左下囲み】

創造的で文化的な国

イングランドの文化セクターが革新的・協力的・国際的である

P.29

【ヘッダ】

達成に向けた取り組み

投資原則

【上囲み】

アンビション&クオリティ

文化団体が意欲的で、仕事の質向上に取り組んでいる

【右囲み】

ダイナミズム

文化団体が活力に満ちていて、今後 10 年間の課題に対応することができる

【下囲み】

環境責任

文化団体が環境責任への取り組みを主導する

【左囲み】

包摂性 & 適切性

イングランドの多様性が、私たちが支援する団体や個人、彼らが生み出す文化にしっかりと反映されている

P.30

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

創造しよう

冒険に満ちたフェスティバル

P.31

【ヘッダ】

達成に向けた取り組み

創造しよう

想像力が掻き立てられる物語

P.32

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

クリエイティブな人々

誰もが生涯を通して創造性を育み、表現することができる

【上囲み】

クリエイティブな人々

P.33

【ヘッダ】

成果

誰もが創造的になることができ、私たち一人ひとりが自身の創造性をさらに発展させる潜在能力を持っています。歌、写真、執筆といった創造活動に参加することは、私たちに喜びを与え、

心を満たしてくれ、また世界について考え、実験し、より良く理解する手助けをしてくれます。

コミュニティの創造活動に関与することにより、孤独を感じることが減り、身体的・精神的健康とウェルビーイングが支えられ、高齢者が元気づけられ、また、社会的結束が構築・強化されます。あらゆる場所にいる人々が、一人であるいは他の人と一緒に、自身の創造性を育み表現する機会をいかに重視しているか話してくれます。しかし、自らあるいは子供たちが参加できる活動を探すことの難しさや、参加する際の障害、参加を続けることの難しさについても話してくれます。そして多くの場所では、このような活動を手配する上で重要な役割を果たす図書館やコミュニティ空間が圧力を感じています。

今後 10 年間で私たちは、各コミュニティがより多くの創造活動の機会を設計し、開発できるように支援していきます。多くの人々はすでに、専門家あるいはボランティアによって主導される団体、営利団体や公的助成を受けた団体を通じて、活動に参加しています。これらの活動が行われる場所では、私たちが助成金を提供する団体に対して、それぞれの属するコミュニティで活動の存在をさらにわかりやすくするよう、促していきます。そして、資金に格差があるような場所では、博物館・美術館、図書館や芸術団体がそのコレクション、知識、スキル、その他の強みを活かし、誰もが参加できるようなコミュニティ主導の活動をサポートするよう支援していきます。

一般市民からは、子供たちが創造活動に参加する機会をいかに重視しているか、また、より多くの助成金がこのような機会の拡張と向上に当てられることを望んでいるという声をいただいています。就学前の期間は、子供が学校に通う準備を整え、将来の創造・文化活動やその先にある成功へ向けた力を育む重要な役割を果たします。私たちは、この年頃の子供たちが参加できる質の高いかつ手頃な活動を全国で用意することが重要であると考えています。そのため、図書館や文化団体、コミュニティ・パートナーや一般市民が一丸となって、あらゆる児童とその家族が利用できるよう活動を作れるよう、支援していきます。

P.34

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

子供や若者は、創造活動（その多くが自分の自由時間に、しばしばオンラインで行われる）から得られる喜びや、それを使っていかに自分を表現し、スキルや自信を身に付けていくかということについて熱心に話してくれます。また、不安やストレス、社会的孤立に対処する際に創造活動が果たす重要な役割についても話してくれます。しかし、ほとんどの若者にとって、家の外で質の高い創造活動・文化活動に参加する機会は、自らの社会的バックグラウンドや地理的条件に左右されます。この状況を変えなければなりません。私たちは、教育課程全体におい

て創造性とクリティカルシンキングの育成に重点を置くように、学校の経営陣と教育省の両方に対して声を上げていきます。あらゆる業界やセクターの雇用者から、従業員の創造的スキルとクリティカルシンキングに価値を見出していると意見を伺っています。今後 10 年間で私たちは、若者たちがこれらのスキルをもっと効果的に育めるよう尽力していきます。

さらに、すべての学校で幅広く重要な芸術のカリキュラムが実施されるよう、全力を尽くしていきます。また、教育省には、ミュージック・エデュケーション・ハブ (Music Education Hub)、ナショナル・ユース・ミュージック シアター (National Youth Music and Dance organisations)、イン・ハーモニー (In Harmony)、サタデー・クラブ (Saturday Club) に対して現在行っている投資を足がかりに、全国の子供や若者たちが学校内外で潜在的創造力を育むことができるよう、働きかけていきます。そして、クリエイティブ産業でキャリアを積みたいと望んでいる子供や若者たちのために、よりわかりやすく容易にアクセスできる道筋を作っていきます。

P.35

【ヘッダ】

成果

創造しよう

私たちの世界を変える演劇

P.36

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

文化コミュニティ

市町村が、文化に対する協力的アプローチを通じて繁栄する

【右中央囲み】

文化コミュニティ

P.37

【ヘッダ】

成果

文化や文化にまつわる体験は、その場所やそこに住む人々に深く継続的な影響を与えることができます。文化活動や芸術団体、博物館・美術館や図書館への投資は、生活を向上させ、地域を再生し、地方経済を支え、訪問者を呼び込み、また、人々を團結させます。

アーツカウンシル・イングランドはすでにパートナーシップ連携を組んで、全国の地方や都市の文化的機会を築き、強化して

います。さらに、国中の文化施設、団体、アーティストに対し、何億ポンドもの投資を行っています。過去 10 年で、人々が住む通りや地区や地域の変革において、文化が果たす、そして、果たすべき重要な役割に対する認識が高まっています。

私たちは、文化への投資の結果として、より社会的に結束し、経済的に強固であり、住人たちがより良い身体的・精神的ウェルビーイングを経験することのできるコミュニティを実現したいと思っています。今後 10 年間で私たちは、その他の国営宝くじの販売店、地方自治体、継続・高等教育や学校、医療従事者、司法制度、ボランティアセクター、商業的クリエイティブ産業、そして多くの企業を含むより幅広いパートナーたちと協力し、各コミュニティが創造性と文化を活かして、居住・就労・就学・訪問するための豊かな場所を作れるよう支援していきます。

これは、現在多くの人々が公的助成を受けた文化活動に参加することを妨げている地理的、経済的、社会的障壁を取り除くことに対して、共通のコミットメントがあって初めて可能となるものです。多くの文化機関は、この問題に対処するために、文化を作り、共有する方法を更新しようとしているところですが、そのことをすでに中核的な目的として掲げている団体もあります。私たちの「Creative People and Places (創造的な人と場所)」プログラムは、コミュニティが地域の文化提供の形成に関与すると、多様な人々が公的助成を受けた文化活動に参加するということを明白に示すものです。そして、文化セクターがコミュニティ・パートナーと緊密に協力すれば、その活動自体がもっと豊かで適切なものになり、資金が行き渡り、また、より多くの市民的・社会的恩恵がもたらされます。

博物館・美術館は、知識や文化参与の中心となる場所です。博物館・美術館は地元のコミュニティと協力し、人々や場所への認識を創造します。図書館は、あらゆるバックグラウンドや年齢のオーディエンスに利用されています。国が提供する 4 つのユニバーサル・オファー (Universal Offer) (読書、健康とウェルビーイング、デジタルと情報、文化と創造性) と共に、地域のコミュニティ内で創造・文化活動を行うための会合場所、創造空間、中心的な場所を提供してくれます。私たちは、図書館、博物館・美術館、ミュージック・エデュケーション・ハブ (Music Education Hub)、芸術団体などの地方の文化団体が、各コミュニティの

P.38

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

ニーズや関心をより良く理解し、その知識を生かして各コミュニティで目に見える利益を生み出せるよう支援していきます。

文化団体と地方のパートナー間の協力は、子供や若者たちの支援を目的としている場合に特に効果的なものになると考えて

います。私たちは、文化団体に対して、地方の教育提供者と連携して、その地域のすべての子供たちが質の高い文化に触れ、それぞれの潜在的創造力を発揮できるような共同文化教育プログラムを計画し、提供し、実現させるよう促していきます。創造活動・文化活動がより良い健康とウェルビーイングにつながるという根拠は増えています。私たちは、保健省、NHS (ナショナル・ヘルス・サービス)、社会的ケア提供者やその他の関係者とより深いパートナーシップを築き、この分野の研究をさらに進め、国際的に効果があると証明された事例から学び、また、社会的処方等の有望な新しいアプローチの可能性を探っていきたいと考えています。

人々には、住む場所がどこであれ、あらゆる文化的機会に接する権利が与えられるべきです。しかし、これらの機会は現在、均等ではなく、公共交通機関が利用できなかつたり高価だったり、町や田舎の地域に住む人々にとってはとりわけ少ないのが現状です。国全体でうまくバランス調整された投資を目指し、物理的インフラとデジタルインフラへの設備投資や、文化コンテンツを家庭や文化施設、コミュニティ空間に配信するためのテクノロジーの活用を含め、様々なプロジェクトで適切なパートナーと協力していきます。私たちは、今後もあらゆる規模のツアー企画、特に公的助成を受けた文化へのアクセスが最も少ないような場所への取り組みを支援していきます。国中の様々な場所に位置する文化セクターには、外に目を向けてほしいと願っています。そして、市町村が文化を生かして国内外でつながりを作り、コレクションの構築や理解、作品の制作や発表において、ディアスポラ・コミュニティの多様な影響や経験、知識を反映できるよう支援していきます。

P.39

【ヘッダ】

成果

創造しよう

心の扉を開くアートセンター

P.40

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

創造的で文化的な国

イングランドの文化セクターが革新的・協力的・国際的である

【下囲み】

創造的で文化的な国

【ヘッダ】

成果

最初の2つの成果を達成するには、新たなアイデアを生み出し、他者とうまく効率的に協力し、すべてのコミュニティの多様な才能を育むことに長けた専門的な文化セクターが必要です。芸術を創造する方法、コレクションをワクワクするような方法で活かし、図書館を作るための想像力と専門知識、そして、創造・共有する文化において、世界を先導していくことを目指さなければなりません。

文化セクターは、その基盤となる人材の持つ力がすべてです。この国の多くのアーティストたちは、その作品の質の高さから世界的評価を得ており、世界中で求められています。しかし、多くのクリエイティブ・プラクティショナーや文化人、とりわけ恵まれない社会経済バックグラウンドを持つ人々、ろう者や難聴者、障害者、黒人やエスニック・マイノリティの人々は、今でも経済的に存続可能なキャリアを築き、維持することに苦労しているのが現状です。

私たちがこの状況に対処しない限り、文化セクターは、その可能性を活かすことができず、この国のクリエイティブ産業の世界における競争力は危機にさらされてしまうでしょう。現在、フリーランスの監督、ライター、生産者、パフォーマー、デザイナー、作曲家、プロデューサー、画家、キュレーター、図書館員、彫刻家、あるいは振付家としてキャリアを築き維持する機会は、不公平にも個人の生い立ちに左右されてしまいます。私たちは、国中の子供や若者たちが、生い立ちにかかわらず、文化セクター、あるいはより幅広いクリエイティブ産業におけるキャリアの可能性を見出すのを助け、そのようなキャリアに向かって進むすべての人々がそのセクターに残り、自らの可能性を發揮できるよう支援したいと思っています。文化セクターの今後の成功は、社会全体を反映した、今よりもはるかに幅広く奥行きのある人材の確保ができるかどうかにかかっています。

私たちは、投資先の団体がイノベーションを取り入れることを奨励します。その団体が新たなテクノロジーを採用しながら、新たな作業の構築と今日のオーディエンスのための文化遺産の再考の両方に焦点を置き、また、一般市民に届く新たな方法による実験にも焦点を置くことができるよう支援していきます。私たちは彼らにもっと協力的になることを望んでいます。相互に学び、資源を共有し、共同で人材を育てるのです。私たちは、継続教育・高等教育、テクノロジー・セクター、慈善・ボランティアセクター、商業的クリエイティブ産業と新たなパートナーシップを結ぶことができるように、各団体を支援していきます。このように幅広い人材を確保することで、各団体が新しく創造的なビジネス・イノベーションの台頭を現実のものとしていくことを確信しています。

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

公的助成を受けている文化セクターは、人材の発掘・育成や、新しいコンテンツの初期開発に着手するなど、商業的クリエイティブ産業のインキュベーターとしての役割をすでに果たしています。私たちは、これらのつながりを深め、イングランドの創造性に関する国際的評判の上に築かれるクリエイティブ産業が、これまで以上に重要なイングランド経済の原動力としての役割を果たせるよう支援していきます。私たちは、継続教育・高等教育や商業セクターと連携してより効果的な研究に取り組み、研修機会を強化することによって、文化セクターで仕事をしている多くの人が新たなテクノロジーをすぐに取り入れ、開発する人となって欲しいと願っています。そうすることで、クリエイティブ産業に携わる人々の適応力が高まり、その結果、公的助成を受けている文化セクターと商業的クリエイティブ産業間を行き来しながら、知識やスキルを循環させていくことができるようになると考えています。

リスク・テイクとイノベーションは、文化セクターの成功において不可欠です。しかし、過去10年間の財源の圧迫により、多くの文化団体では実験や正式な研究開発への着手が難しくなっています。将来的には、アーツカウンシルがイノベーションを支援できるよう、これまで以上に多くのことを行っていく予定です。リスクを進んで受け入れ、投資のすべてがすぐに成果を出すとは限らないということを受け入れるという事実をより明確にしていきます。

この国のクリエイティブ・プラクティショナーや文化団体の多くはすでに国際的にも有名で、世界的な観光スポットとしてのイングランドの地位に貢献しています。私たちは、この成功を足がかりに、より多くの団体やプラクティショナーが、より強固な国際的つながりを構築できるよう支援したいと思っています。この国が欧州内や世界における立ち位置を改める中で、外向的でグローバルなつながりを持ち、国際的な人材と協力し、その専門知識から学ぶことに全力を注いでいるような文化セクターを支援・開発していきたいと思っています。私たちは、知識共有、共同投資、取引機会を可能にする新たな国際パートナーシップの構築を支援し、国全体に財政的・文化的利益を提供していきます。また、イングランドの博物館・美術館に所蔵されている世界的なコレクションに関する国際的研究や対話をさらに促進し、それらの博物館・美術館が協力的・包摂的アプローチにより、その出自についてより明確に理解した上で、コレクションを取り扱うよう支援していきます。そして、私たちが支援する団体が、世界文化の最高レベルのものを集め、鑑賞者に喜びを与え、現在そして未来の世代の図書館員、キュレーター、アーティストにひらめきを与えるよう促していきます。

【ヘッダ】

成果

創造しよう

クリエイターでいっぱい为国

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

【上囲み】

アンビション&クオリティ

文化団体が意欲的で、仕事の質向上に取り組んでいる

【右囲み】

ダイナミズム

文化団体が活力に満ちていて、今後 10 年間の課題に対応することができる

【下囲み】

環境責任

文化団体が環境責任への取り組みを主導する

【左囲み】

包摂性 & 適切性

イングランドの多様性が、私たちの支援する団体や個人、彼らが生み出す文化にしっかりと反映されている

私たちの投資原則

この<戦略>の3つの成果を達成するためには、アーツカウンシル・イングランドと私たちが投資する団体や人々の両方が変わる必要があります。私たちの4つの投資原則が、その変化を導いていきます。それらを受け入れようと取り組む団体こそが3つの成果をよりうまく実現させ、より多くの利益を一般市民に提供することができると、私たちは確信しています。

今後 10 年間で、私たちは、文化団体が現れては消えるだけでなく、容易に変化し発展できるような環境を作りたいと考えています。2030 年までに私たちは、今日支援している団体とは異なる団体や個人に数多く投資しているでしょう。そのうちのいくつかはコミュニティやアーティストの将来的なニーズを満たすことができるよう進化した、現在のナショナル・ポートフォリオのメンバーでしょう。また、他は新しいメンバーとなるでしょう。彼らの活動は、そのコミュニティ、クリエイティブ・プラクティショナー、そしてパートナーに評価されることでしょう。集まれば、彼らがこの国の多様性を反映することになり

ます。

私たちからの投資を望む団体には、4つの原則をどう適用しようと計画しているか、どのようにして4つの原則に対して実績の向上に努めるつもりなのかについて、話して欲しいと思っています。各団体の計画が適切かつ意欲的であることを確認するのはアーツカウンシル・イングランドの責任ですが、その進捗を監視し報告するのは各団体の委員会の責任になります。私たちは、団体に対して、世界中の成功例から学び取るよう促し、必要に応じて変化するよう支援します。

また、これらの原則を私たち自身の組織に適用し、成長・改善計画を定め、その進捗も報告していきます。

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

アンビション&クオリティ

文化団体が意欲的で、仕事の質向上に取り組んでいる

【上囲み】

アンビション&クオリティ

【ヘッダ】

投資原則

一般市民は、投資のリターンとして最高のものを受け取るべきであり、アーツカウンシルはすべての取り組みにおいて最高のクオリティを追求することに尽力します。私たちは、研修やスキルに価値があると確信しており、私たちの投資を活かすことで各団体が人材を育成し、質の向上に努められるように支援していきます。それは、彼らの創造的活動やプロセスだけでなく、組織の運営方法についても言えることです。

一定の種類や規模の創作活動が他より本質的に優れている、または価値があるとは思っていません。優れたものは、村の集会所やコンサートホールでも見つけることができます。また、参加する過程や制作される作品の中でも見つけることができます。私たちは、その分野で秀でる可能性を持つあらゆる年齢のクリエイティブ・プラクティショナーや団体を支援すること、また、その分野ですでにトップの座を築いている人たちの支援にも取り組んでいます。

クオリティに関する判断は必然的に複雑であり、議論の余地があるものです。そこで、私たちは、文化セクターと協力してそれに関する共通の言語を今後も確立していき、それに基づいて投資判断の検討と根拠づけを行っていきます。しかし、結局のところ、私たちの経験と専門知識を生かして判断をしていくこ

とは、アーツカウンシルの負うべき責任です。

私たちは、大胆で、仕事の質を向上させていく意思がはっきりしている団体に投資を行っていきたいと思っています。申請者が、投資依頼をする際にその意欲を明確にし、作品を向上させるための計画について話してくれることを期待しています。自分たちの取り組みのクオリティについて一般市民や同業者などの意見を集め、その感想をもとにスタッフや理事と協議を行い、作品に関する今後の決定を形作ってほしいと、期待しています。私たちは、世界のどこであれ、専門とする分野における最高の作品について各申請者が把握し、その知識をいかに自身の成長に生かしていくつもりなのかを話してもらいたいと思っています。

P.48

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

ダイナミズム

文化団体が活力に満ちていて、今後 10 年間の課題に対処することができる

【右囲み】

ダイナミズム

P.49

【ヘッダ】

投資原則

今後 10 年間で突き進む中で、新たなテクノロジーがもたらす機会や、公的助成金への継続的な負荷に加え、一般市民の好みや習慣が変化していくだろうと予想しています。このような機会やリスクをうまくとらえ、乗り越えていくためには、文化団体はもっとダイナミックになる必要があります。ダイナミックになるということは、ときにミッションやビジネスモデルの変更を意味することもあるでしょう。

私たちは、急速に変化する外部環境に可能な限り迅速かつ効果的に対応するためのスキルを向上させるため、その人材に投資していくことを、文化団体、特にナショナル・ポートフォリオに含まれている団体に期待しています。今後 10 年間で成功するビジネスを構築するため、可能な限り幅広いアイデアや経験を利用することができ、楽しく、包摂的なチームを育て、ポジティブな変化を引き出すには、良いガバナンスとリーダーシップが不可欠になります。文化団体は、これまで以上に起業家精神を持つことで、収入を最大限に引き伸ばし、コストを削減して、より強い財政的回復力を持てるようになるビジネスモデルを構築する必要があります。私たちは、文化団体がサービスを共有し、他の団体との合併を検討する機会を模索することを期待しています。

投資先の団体においては、豊富な情報と有効なデータを活用する文化が活発になり、各事業のあらゆる側面で適切な新技術を採用されることを期待します。文化セクターがまだ鑑賞者や作品の影響力を理解するためにデータの力を活用できていないことは自明です。私たちは、テクノロジー・セクターや継続教育・高等教育とパートナーシップを結び、この分野の向上を促していきます。

P.50

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

環境責任

文化団体が環境責任への取り組みを主導する

【下囲み】

環境責任

P.51

【ヘッダ】

投資原則

気候危機と環境汚染は、今後 10 年間およびそれ以降も、私たちが直面する最大の課題となるでしょう。文化セクターはすでにその二酸化炭素排出量削減に大きな歩みを進めていますが、それは一部にはアーツカウンシルが支援する幅広い取り組みの結果によるものです。これだけでなく、ますます多くのアーティストや団体が気候、生物多様性、廃棄物、エネルギーといった主題を、彼らが制作・企画・支援する作品に取り入れています。他方、自然史コレクションを使った研究は、人々がこのような問題をより良く理解するのに役立ち、これに対応するための方針や行動として適切なものを提案してくれます。この創造的で科学的な対話は、新たな洞察を提供し、鑑賞者の需要を反映した、気候危機に対する文化的反応を形作っています。

今後 10 年間で、私たちの支援する文化団体が環境責任に対する取り組みを倍加させていくと期待しています。私たちは、各団体が環境に及ぼす影響を縮小するための計画を立て、その過程で進捗を評価・理解・報告するように要求していきます。

私たちは、文化団体に、事業と建物の運営において、環境に対して責任あるアプローチを取るという意味で、各コミュニティ内でリーダーとしての役割を果たしてほしいと考えています。例えば二酸化炭素排出量の削減や、リサイクル率の増加、プラスチック使用量の削減、水消費量の削減などです。さらに、文化団体が活動するコミュニティ内で、パートナーシップを通して、また鑑賞者と一丸となって、環境責任の必要性を伝えていくことを期待しています。文化団体は、変化をリードする際の文化セクターの役割を認識し、革新的で、自らが行う選択に迅速に対応することを目指していかなければなりません。

P.52

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

包摂性 & 適切性

イングランドの多様性が、私たちが支援する団体や個人、彼らが生み出す文化にしっかりと反映されている

【左囲み】

包摂性 & 適切性

P.53

【ヘッダ】

投資原則

2011年、アーツカウンシル・イングランドは「多様性に向けた創造的実践（Creative Case for Diversity）」を開始しました。以来、文化団体が制作・展示・収集を行う作品に関してその団体が下す判断に着目することができるようになりました。また、このことにより、どのアーティストに委託し、どのレパトリーを上演し、どの展覧会を開催して、どのパフォーマーを採用するかといった判断が、イングランドの多様性を表現し、すべてのコミュニティの便益のために確実に公的資金が投資されるようにするために重要な役割を果たすという認識が広がっています。

多様性に向けた創造的実践（Creative Case for Diversity）は、この国の文化的設備の質を深め、これまであまりにも多くの場合に見逃されてきた才能あるクリエイティブ・プラクティショナーに発言の場を与えてきました。今度は、これを基礎として、文化団体のリーダーシップ、ガバナンス、人材、そして鑑賞者について、未だあちこちに残る多様性と包摂性の不足に対応する時です。そうすることで平等と公平を促進し、文化団体がビジネスとしてもより効率的であることを保証することができます。

2010年の平等法（Equality Act）では、アーツカウンシル・イングランドが公共機関平等義務（Public Sector Equality Duty）を行使することにより、私たちの投資と政策立案における平等性を検討し、前進させることが求められています。将来的には、私たちから定期的な投資を受けている団体が、そのガバナンス、リーダーシップ、従業員、参加者、鑑賞者、そして彼らがつくる作品がいかんして活動するコミュニティに反映されるのかということに関する目標に合意していただくことを求めています。これらの目標は、保護特性（障害、性別、人種など）と社会経済的バックグラウンドの両方を考慮したものになります。

また、私たちが支援する団体には、他の分野でも変化を期待していきます。そして、各コミュニティ、特に今十分なサービスが提供できていないコミュニティと、より緊密なつながりを構

築してほしいと考えています。私たちは、もっと多くの人々にとってより一層の意義を持つ存在になってほしいと考えています。協力するコミュニティ、パートナー、そしてプラクティショナーとの関連性を強化して欲しいのです。そこで私たちは、文化団体に対して、子供や若者、アーティスト、クリエイティブ・プラクティショナーや、私たちの3つの成果を実現するために協力しなければならないパートナーを含め、一般市民の声にどのようにして耳を傾けているのかについて明示するように求めています。また、企画の立案時に、いかにその声を反映させているのかについても聞いていくつもりです。

今後は、各団体がどのようにコミュニティを反映し関係を構築しているかや、活動の質や意欲に基づいて、各団体を評価していきます。

P.54

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

創造しよう

称え合う場

P.55

【ヘッダ】

投資原則

創造しよう

じっくり考える時間

P.56

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

私たちの役割とコミットメント

この<戦略>を実現するには、アーツカウンシル・イングランドは変わらなければならない。

以下のコミットメントは、今後10年間私たちがどのように活動するのかについて定めることを目的としています。発信を軌道に乗せ、責任を持ち、パートナーとして皆の参加を促す役割を果たすためです。これらのコミットメントはすべてを網羅したものではなく、必然的に時間とともに変化するものです。しかし、私たちが焦点を見失わず、異なるやり方で取り組み、組織として発展し続ける上で役に立つはずで

今後10年間、国の役割として、私たちは以下のことをお約束

します：

- 各地の現地事務所のネットワークを維持しつつ、強力な国家情報と組み合わせることで、地方レベルで能力・理解・知識を育てていきます。今後も地方と国の意思決定をとりまとめ、効率的な開発機関として活動していきます。
- 教育のすべての分野で、政府と地方自治体、商業セクター、非営利団体、そしてボランティアセクターも含め、強固なパートナーシップを確立・発展・維持していきます。
- 文化分野で取り組みを行っている団体や個人のための国際的機会をより多く支援し、仲立ちするための専門知識と能力を育成していきます。
- 議論のためのプラットフォームを提供し、文化セクターが世界中の新しく最も優秀なアイデアから学ぶことができるよう支援していきます。
- 全国、そして地方で、機会と課題の両方に迅速かつ効果的に対応していきます。
- 若者を含めたあらゆる人々の声に耳を傾け、また発言の場を与えることで、私たちが仕える一般市民、文化セクターや場所にとってふさわしく、迅速に対応できるよう努めていきます。

投資のプロセスにおいて、私たちは以下のことをお約束します：

- 申請過程や監視・報告要件を定期的に見直し、それが可能な限りアクセスしやすく、理解しやすく、また包摂であることを確認していきます。
- 代替可能な投資スキーム（ローンや出資金）を用意して従来の時間的制約のある助成金を補助し、より柔軟な投資者になります。

P.57

【ヘッダ】

私たちの役割とコミットメント

- 新たなテクノロジーに投資し、それを利用して既存のサービスを向上させ、新たなサービスを開発していきます。
- また、投資を行う前には、以下の質問に答えます。
 1. この提案により、私たちの3つの成果がどの程度達成されるのか？
 2. この提案により、私たちの今の実行計画における優先課題にどの程度対応することができるのか？
 3. 申請者は、私たちの4つの投資原則に対するコミットメントをどの程度証明することができるのか？
 4. この提案は、全国および分野（芸術分野、博物館・美術

館、図書館など）ごとの活動をバランスよく成立させるためにどの程度貢献することができるのか？

5. この活動またはサービスは、私たちの投資がなくても実現できるか？
6. 私たちの助成金は、それがなければ失ってしまうような追加投資を生かすことにつながるか？
7. この提案に最も適した投資の種類と期間（収益または投資資金、助成金、ローンまたは出資金）はどのようなものか？

人材に関して、私たちは以下のことをお約束します：

- 私たちは、人材、リーダーシップ、そしてガバナンスがこの国の人々を代表するものになるようにします。
- より多くのろう者・難聴者や身体障害者が、アーツカウンシル・イングランドで働けるようにします。
- 今後10年間で必要となるスキルと専門知識を明確にし、研修や採用を通して投資・開発を進めていきます。
- 環境への負荷を低減させ、その進捗について評価し、理解して報告していきます。

P.58

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

研究とデータに関して、私たちは以下のことをお約束します：

- 私たちは、評価したいものとその方法を明確にします。
- 現在の法規制とオープンデータの原則の両方を適用しながら、大胆かつ責任を持ってデータを収集し利用します。
- 一般市民やステークホルダーが求めているものをよく理解し、文化セクター内外の他者から学ぶために研究を利用します。
- 私たちが取り組む一切の研究が、他者にとって利用しやすいことを保証します。

責任と目標に関して、私たちは以下のことをお約束します：

- 私たちは、該当する期間に関する優先課題とその優先課題を実行するための取り組みを定めた一連の実行計画（Delivery Plan）を作成します。
- その実行計画には、私たちの成果と優先課題の進捗状況を追跡し、報告する方法について定めた、一連の業績指標を盛り込みます。また、アーツカウンシルがどのように4つの投資原則に対する実績を向上させるか、その詳細を記載します。
- 私たちの<戦略>、目標、および一般市民やステークホルダーに代わって行う投資の進捗状況を定期的に報告します。
- 私たちと、私たちの投資先、さらにより広範な文化セクターが与える影響について、より明確に説明します。
- 私たちの成功と失敗、進捗と課題から学び、またそれらを

共有します。

- より多くの資源を創造性と文化の支援に当てるため、私たちの活動すべての領域において今後も効率化を図り続けます。

P.59

【ヘッダ】

私たちの役割とコミットメント

創造しよう

活気あふれるコミュニティ

P.60

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

さあ今こそ、創造しよう

ダレン・ヘンリー(Darren Henley)

アーツカウンシル・イングランド CEO

10年というのは長い期間です。このように長期間の<戦略>が成功するには、厳格さよりも柔軟さが必要です。つまり、指示書ではなく導く光が必要です。ですから、私たちがここで設定したのはアクションプランではなく、ビジョンです。それは、この国で創造と文化が果たすことのできる、より豊かで幅広く深みのある役割に関するビジョン、そして、それを達成するために私たち誰しもが適応して協力すべきやり方に関するビジョンです。

私が2015年にアーツカウンシル・イングランドの一員になったころ、可能な限り多くの時間をオフィスの外で過ごすという誓いを立てました。以来5年間、国のあちこちを飛び回り、コーンウォール(Cornwall)からカンブリア(Cumbria)まであらゆる市町村に滞在してきました。アーティストや芸術団体と対話し、博物館・美術館や図書館を訪れ、就学前の児童や老人ホームの方々の声に耳を傾けてきました。コーヒーを何杯も飲み、たくさんの手作りケーキをいただいてきました。そしてその過程で、この国の文化活動の範囲が驚くほど幅広い一方で、それらすべてを一つに結びつけるものがあることを知りました。創造活動や文化体験は、その形や場所にかかわらず私たちの生活を向上させるのです。それらは知覚を揺らがせ、視野を広げ、コミュニティを形成して変革し、それまで想像できなかったようなやり方で私たちを活気づけてくれます。つまり、私たちに幸福を与えてくれるのです。

過去数年、私は幸運にも数えきれないほどの感動的で衝撃的な、気持ちを高揚させる文化体験と出会うことができましたが、その中でも私が特に忘れられないものがあります。2015年、ノー

サンバーランド(Northumberland)のアッシントン(Ashington)にあるエスケープ・ファミリー・サポートセンター(Escape Family Support Centre)を訪れました。炭鉱が閉鎖されて以来、慢性的な経済的・社会的困難に悩まされている地域です。薬物乱用の影響を受けた個人や家族の支援を行っているセンターの女性グループが、地域のアーツカウンシル・イングランド・クリエイティブ・ピープル・アンド・プレイス・プログラム(Creative People and Places programme)によるプロジェクトの一環として、現地のアーティストである、モーリーン・ハンリー(Maureen Hanley)と協働していました。そのセンターはすでに、同じ志の女性からとても愛されるコミュニティ空間になっていました。しかし、彼女たちの作品を壁に展示することを支援したモーリーンの指導と励ましによって、その場所とその場所における彼女たちの居場所はさらに変わっていきました。

P.61

【ヘッダ】

さあ今こそ、創造しよう

創造しよう

より良い暮らし

P.62

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

自身の絵画を指差しながらセンターの廊下を案内する彼女ら/彼女らの一人ひとりが、その作品と取り組みを通して新たな誇りと目的を持つことができたと語ってくれました。自分でも知らなかった才能を発見し、新しく、より魅力的な表現の方法を見つけていたのです。以前は、自分たちが直面する苦難により団結していたコミュニティが、今では何か別のもの、つまり、共通の創造活動により団結していました。

アッシントンのような町の人々の創造的・文化的意欲にアーツカウンシルが投資することは、ロンドンが今後も世界の舞台で文化を発信していく存在であり続けることと同様に重要なことです。したがって、今回の<戦略>のビジョンは、ここに住むすべての人々の創造性が評価されて支援を受け、文化がコミュニティを形成・変革し、文化機関がすべての人々を受け入れている国にしようというものです。また、誰であろうとどこに住んでいようとも、すべての人がその恩恵を分かち合えるようになる国にしようというものです。

しかし、それは単に私たちのビジョンであるというだけではありません。私たちがこの<戦略>について考え始めたとき、私が最高責任者としての務めを果たしたように、アーツカウンシルがその勤めを果たすべきであると、私は決めました。つまり、個人のアーティスト、私たちの博物館・美術館、図書館や芸術

団体で働く人々、さらにあらゆる年齢の一般市民の考え方をアーツカウンシルが追求し、そこから学ぶのです。1年間の対話を経て、2つの明確な統一的なメッセージが浮上しました。一方では、創造と文化が、特に子供や若者にもたらしてくれる深い喜びや幅広い幸せについて人々は話しました。しかし、他方では、人材は国に溢れているがそれを活かすチャンスがないという声を何度も耳にしました。この<戦略>のビジョンとその成果と投資の原則は、この2つのメッセージの両方に直接応えるものです。この<戦略>は、閉ざされた扉の向こうで、非公開に考えられたものではありません。私たちが代表するセクターや私たちが仕えるコミュニティと協力して作成したものです。

そして、この協力の精神により<戦略>が完成した今こそ、それを実現させるための本当の活動が始まります。今後10年の歩みの中で、私たちが生きる世界は必ず変わっていくでしょう。経済、社会、政治、環境の課題が生まれては変わり、特にテクノロジーやデータを取り巻く新たな機会が登場するでしょう。

P.63

【ヘッダ】

さあ今こそ、創造しよう

創造しよう

次の大きな出来事

P.64

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

このように急速な変化を遂げる情勢の中で、私たちは、機敏にかつ迅速に物事に対応し、リスクの舵取りを行い、機会を最大限に活かさなければなりません。しかし、私たちが特定した3つの成果、つまり、クリエイティブな人々、文化コミュニティ、そして創造的で文化的なイングランドの発展と支援という共通の目標は、依然として変わらないままでしょう。そして、これらの成果と密接に関連する投資原則、つまり、私たちの作品と取り組みのすべてにおける意欲と品質、ダイナミズム、環境責任、そして、包摂性と適切性に対する共通のコミットメントは、課題に対応するために必要なツールを私たちに与え、年月を経て変化を促してくれるでしょう。

今後10年間でこの<戦略>を実現させるため、アーツカウンシル・イングランドは、創造と文化のための国の開発機関としての役割に、より注力します。新しいテクノロジーから学び、その限界を押し広げ、創造活動のすべての領域で革新し、リスクを冒す態勢が整っている、新しい世代のクリエイティブ・プラクティショナーや文化団体に投資することで、これを推し進めます。また、コミュニティ、企業や機関、そして、共に取り

組みを行うクリエイティブ・プラクティショナーたちとのつながりを構築し、パートナーシップを築くことで、これを推し進めます。また、創造性と文化がもたらす恩恵について根拠をより明確にし、より多くの人々にそのことを伝えることでも、これを推し進めます。そして、最後に、私たち一人ひとりの創造性と文化および才能とニーズを包括的にかつ真価を見極めた方法で、私たちはこれを共に成し遂げていきます。なぜなら、文化セクターが未来に適したものになるように支援しようとするならば、あらゆる場所のあらゆる人々がその恩恵を享受して参加できるものにしなければなりません。これができなければ、何事も成功することはできないでしょう。私たちは、イングランド全体のためのアーツカウンシルでなければなりません。この<戦略>はそのための道順を示すものです。

私は、この<戦略>のビジョンを信じています。アーティスト、学芸員、図書館員、芸術団体、博物館・美術館、図書館が、それを実現する力を持っていると確信しています。そして何よりも、生活の中に創造性と文化がある人々は、より幸福で満たされた人間であると確信しています。この<戦略>を通じて、私たち一人ひとりが創造性と文化から恩恵を受ける機会があるような国を作り上げたいと思っています。今日のこの日から、私たちとともに原則に全力を注ぎ、ここに定めた成果を実現しませんか。共に、より良い暮らしを創造しましょう。

【右中央囲み】

ここに住むすべての人々の創造性が評価されて支援される国

P.65

【ヘッダ】

さあ今こそ、創造しよう

創造しよう

新しい考え方

P.66

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

用語解説

【左上囲み】

CREATIVE PEOPLE AND PLACES (創造的な人と場所)

アーツカウンシル・イングランドが生み出し、国営宝くじが助成金を出しているプログラムで、芸術や文化への関与が全国平均を下回っているような地域へ投資を割り当てるためのもの。そのような場所の人々に機会を広げるように変革し、一般市民が地方の文化芸術を形成するのを支援し、その取り組みのなかで、公的助成を受けている文化芸術への観客と参加率を増やすことを目的としている。

【右上囲み】

グレート・キャンペーン (THE GREAT CAMPAIGN)

国内の幅広い体験を紹介することを目的としたキャンペーンで、文化、遺産、スポーツ、音楽、田舎、食、ショッピングといったテーマを通じて、英国の対外宣伝もしている。2012年に立ち上げ、国際通商省 (Department for International Trade) がまとめている。

【左中央囲み】

イン・ハーモニー (IN HARMONY)

音楽を作る楽団の力と規律を活かして、公的助成を受けている文化に接する機会が少ないコミュニティに住む子供たちの生活に刺激をもたらす変革することを目的とする国のプログラム。アーツカウンシル・イングランドと教育省 (Department for Education) が共同で支援している。

【右下囲み】

ミュージック・エデュケーション・ハブ (MUSIC EDUCATION HUBS)

地方自治体、学校、文化団体、コミュニティやボランティア団体といった団体が協力し、共同で音楽教育を提供することを目的としている。地方のニーズに対応し、ナショナル・プラン・フォー・ミュージック・エデュケーション (National Plan for Music Education) の目標を達成する。アーツカウンシル・イングランドが教育省に代わってミュージック・エデュケーション・ハブの助成金を管理している。

【左下囲み】

ナショナル・ユース・ミュージック・オーガニゼーション (NATIONAL YOUTH MUSIC ORGANISATIONS)

幅広い音楽分野で、才能ある若いミュージシャンが成長するための成長ルートと道筋を用意する団体で、全国的に活動している。アーツカウンシル・イングランドと教育省が共同で支援を行っている。

P.67

【ヘッダ】

さあ今こそ、創造しよう

【左上囲み】

ナショナル・ポートフォリオ (THE NATIONAL PORTFOLIO)

私たちが数年単位で投資を行う、あらゆる規模と地理的条件にある、芸術団体、博物館・美術館や図書館を指す際に、現在用いられている用語。

【右上囲み】

保護特性 (PROTECTED CHARACTERISTICS)

2010年の平等法では、保護特性を理由に誰かを差別することは違法とされている。同法によれば、その特性とは年齢、障害、性転換、婚姻および市民パートナーシップ、妊娠および母であ

ること、人種、宗教または信仰、性別、ならびに性的指向を指す。アーツカウンシル・イングランドは、階級や社会経済的バックグラウンドも機会への障害になっていることを認識している。

【左下囲み】

サタデー・クラブ (SATURDAY CLUBS)

2009年に策定された全国プログラムで、若者がクリエイティブ産業から刺激を受け、そこで成長していくための機会を定期的につくることをそのビジョンとしている。このプログラムは、13-16歳であれば誰でも利用することができ、英国中の大学や短大の中で実施されている。アーツカウンシル・イングランドと教育省が共同で支援している。

【右下囲み】

社会的処方 (SOCIAL PRESCRIBING)

医療従事者やその他の紹介サービスによる、不安神経症、ストレス関連の症状、うつ、またはその他の精神的・身体的健康障害を有する人々に対する、創造活動・文化活動の処方。

P.68

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

創造しよう

P.69

【ヘッダ】

さあ今こそ、創造しよう

真に創造的な国

P.70-76

【偶数ページヘッダ】

戦略 2020-2030

【奇数ページヘッダ】

さあ今こそ、創造しよう

(本文テキストなし)

P.77

【ヘッダ】

団体概要

アーツカウンシル・イングランド (Arts Council England)

【上囲み】

概要

アーツカウンシルは、バーミンガム、ブライトン、ブリストル、ケンブリッジ、リーズ、ロンドン、マンチェスター、ニューキャッスル、ノッティンガムに事務所を構えています。私たちは、政府が定め、ロンドン、ミッドランド、北部、サウスイースト、サウスウェストの5つのArea Councilが支援するNational Councilにより管理されています。私たちは、政府外公共機関(non-departmental public body、NDPB)の独立慈善団体で、デジタル・文化・メディア・スポーツ省(Department for Digital, Culture, Media & Sport : DCMS)に報告義務があります。私たちは、1993年の国営宝くじ法(The National Lottery Act)により、国営宝くじ収益金の分配機関として設立されました。

2011年、私たちの責務には、芸術だけでなく、博物館・美術館や図書館の支援・開発も含まれるようになりました。私たちは、長期の公益のために、特に興味深い品物やコレクションの取得・共有・保護が可能な様々な法規制上の英国全土の責任を担っています。また、教育省と協力してミュージック・エデュケーション・ハブ(Music Education Hubs)のネットワークを実現し、イングランド中のすべての子供たちが品質の高い音楽教育を受けられるように取り組んでいます。

私たちは、英国に拠点を置く2,000人以上のアーティストによる作品を集めた、今も増え続ける大規模な現代芸術のコレクションを所有しています。アーツカウンシル・コレクション(The Arts Council Collection)は、国の至る所にあるギャラリーや公共の建物で一般に公開されています。

【左下囲み】

アーツカウンシル・イングランドの2018/19年(直近年)の年間収入は、7.12億ポンドでした。私たちの主な収入源は助成金(Grant-in-Aid)(つまり、政府から直接受けるお金で、2018/19年の総額は4.87億ポンド)と、国営宝くじ(2018/19年は2.24億ポンド)です。私たちに付託された権限は、これらすべての資金を使ってイングランドの一般市民のために文化芸術を支援することです。現在は、3つの方法でこれらの資金を分配しています。

- i) **The National Portfolio** : 私たちが数年単位で投資する、規模にかかわらずすべての地理的条件にある、主な芸術団体、博物館・美術館や図書館
- ii) **National Lottery Project Grants** : 一度限りのプロジェクトを支援するローリングプログラム
- iii) **開発助成金** : アーツカウンシルが定めた特定の戦略的取り組みの支援に利用される

【右下囲み】

アーツカウンシルは、その目的を実現するために幅広いパートナーと協力しています。中央政府には、デジタル・文化・メディア・スポーツ省、教育省、保健省、住宅省、コミュニティ・地方自治省などが含まれます。地方自治体と協力することも多く、カウンシルと共に現地の文化的インフラへ投資もしていま

す。他の重要なパートナーには、地方企業との提携や継続教育・高等教育などが含まれます。地方自治体協議会(Local Government Association)、文化遺産宝くじ基金(National Lottery Heritage Fund)、全国宝くじ地域基金(National Lottery Communities Fund)、英国映画協会(British Film Institute)、ブリティッシュ・カウンシル(British Council)、BBC、ヒストリック・イングランド(Historic England)といった幅広い公共団体と、覚書に基づく活発なパートナーシップを結んでいます。アーツカウンシルは、国際アーツカウンシル・文化機関連盟(International Federation of Arts Councils and Cultural Agencies、IFACCA)、舞台芸術国際会議(International Society of Performing Arts、ISPA)および非公式ヨーロッパ演劇会議(Informal European Theatre Meeting、IETM)の現役メンバーです。

P.78

【ヘッダ】

戦略 2020-2030

画像著作権

P.3 : 『We're Here Because We're Here』(シェフィールド)、バーミンガム・レパートリー・シアター(Birmingham REP)およびナショナル・シアター製作。写真 ©14-18 NOW

P.5 : 「Spring Waking」Emergency Exit Arts、Output Arts。写真 ©ジャック・パスコ(Jack Pasco)

P.7 : ナショナル・ユース・シアター - Summer Courses。写真 ©アレサンドラ・デビッドソン(Alessandra Davidson)

P.13 : Heart of Glass によるイベント。
写真 ©ステイブン・キング(Stephen King)

P.16 : 「A Certain Kind Of Light - Light in art over six decades」展、アーツカウンシル・コレクション・ツアー展示。写真 ©ステイブ・タナー(Steve Tanner)

P.17 : 『The Nature of Why 2018』 - サウスバンク・センター(Southbank Centre) - パラオーケストラ(Paraorchestra)。写真 ©ポール・ブレイクモア(Paul Blakemore)

P.20 : ホフェッシュ・シェクター(Hofesh Shechter)作『ポリティカル・マザー(Political Mother)』コレオグラファーズ・カット2015。
写真 ©ビクター・フランコウスキー(Victor Frankowski)

P.21 : 『We Dwell Below』(Ooni Studios 2018、ハンコック自然史博物館(Hancock Museum))。写真 ©マーク・サベジ(Mark Savage)

P.25 : リバプール図書館。写真 ©グラハム・ルーカス・コモンス(Graham Lucas Commons)

P.30 : Serious (シリアス) – EFG ロンドン・ジャズ・フェスティバル (EGF London Jazz Festival)。

写真 ©スティーブン・ライト (Stephen Wright)

P.31 : 『The Lost Lending Library』、Punchdrunk。

写真 ©ポール・コクレーン (Paul Cochrane)

P.35 : 『The Merchant of Venice and Othello (オセロとヴェニスの商人)』のカーテンコールの様子。写真: デビッド・テット

(David Tett) © RSC

P.39 : ACE Dance and Music Saturday Class Christmas Gala 上演。

写真 ©グレーム・ブレイドウッド (Graeme Braidwood)

P.43 : Pavilion Dance South West、Joie de Vivre ポストカード (グラハム・ジャガー (Graham Jagger)、グラハム・ターナー (Graham Turner)、スティーブ・クック (Steve Cook) (Dance SIX-0) と共に)。

写真 ©ケビン・クリフォード (Kevin Clifford)

P.54 : Serious (シリアス) – EFG ロンドン・ジャズ・フェスティバル。

写真 ©スティーブン・ライト (Stephen Wright)

P.55 : ブリッドポート・アーツセンター (Bridport Arts Centre)。

写真 © グラハム・シャックルトン (Graham Shackleton)

P.59 : Emergency Exit Arts – テムズミード 50 年誕生祭。写真 ©Emergency Exit Arts

P.61 : アルトニック・ベルスクエア (Artonik Bell Square)。写真 ©ビプル・サンゴイ (Vipul Sangoi)

P.63 : ILUVLIVE。写真 ©アビゲイル・シー (Abigail Shii)

P.65 : 『ブラック・スワン (Black Swan)』 (『11 Million Reasons to Dance』展向けに発想・再考、People Dancing.により委託)。

写真 ©ショーン・ゴールドソープ (Sean Goldthorpe)

P.68/9 : ©Yorkshire Festival

P.79

アーツカウンシル・イングランド

ザ・ハイブ

49 レバーストリート

マンチェスター M1 1FN

ウェブサイト: artscouncil.org.uk

電話: 0161 934 4317

Eメール: enquiries@artscouncil.org.uk

テキストフォン: 020 7973 6564

アーツカウンシル・イングランドは、The Arts Council of England の商号です。

チャリティ登録番号 1036733

この文書は点字、大きいサイズのプリント、オーディオ CD、電子媒体としても入手可能です。これらのフォーマットを必要とされる場合はご連絡ください。

私たちは透明性が高く、アクセスしやすい組織を目指しています。私たちの活動に対するご意見を歓迎します。

以下の問い合わせチームへご意見をお寄せください:

ザ・ハイブ

49 レバーストリート

マンチェスター M1 1FN

または、ホームページ (artscouncil.org.uk/contact-us) のお問い合わせフォームをご利用ください。

環境配慮印刷

この出版物は、FSC 認証紙に環境に配慮して印刷されています。溶剤の 90%以上がリサイクルにより再利用され、この文書の作成に伴うすべての廃棄物についてもリサイクルの取り組みが行われています。プリンタは FSC で ISO 14001 認証を取得しており、すべての印刷過程で環境への負担を考慮するための厳しい手順が設けられています。

Munken Polar Rough は FSC™ です

責任ある森林管理の証: fsc.org

FSC-C022692 および PEFC 認証

©アーツカウンシル・イングランド、2021 年

デザイン: opx.studio

ARTS COUNCIL ENGLAND 「Strategy 2020-2030 Arts Council England」

日本語訳

[委託元] 独立行政法人 日本芸術文化振興会

[受託先] 翻訳: クリムゾン インタラクティブ・ジャパン

ディレクション: 田村 かのこ (Art Translators Collective 主宰)

発行日 令和 2 年 12 月

*無断転載・複写はお断りします。